

# 生涯学習講座たより

皆さん、こんにちは。8月・9月に「竹中半兵衛～乱世を生きた軍師の姿～」と題して講座を行いました。当日はすべての教室を合わせて102人のお申込みがありました。公開講座に引き続き、今回の講座にも多くの方にお越しいただきました。本当に有難うございました。また10月26日(日)には毎年恒例の見学ツアーを行い「明智光秀とその実像」と題し、光秀にゆかりのある亀岡市、京都市伏見区、大津市坂本を回りました。当日は天気も良くまさに行楽日和という一日でした。お申込みしていただきました皆さん本当に有難うございます。現地の学芸員の方による解説もお願いし、光秀の人物像に迫るツアーとなりました。

さて今回の講座は「明智光秀～正統を守った家臣の姿～」と題して講座を行います。明智光秀といえば、本能寺の変において主君信長を討つものの、秀吉に山崎の戦いで敗死したため、反逆・逆臣・三日天下などの強いイメージがあります。しかし、光秀の実像を見ると、信長の家臣として朝廷・将軍家などとの調停役の顔、丹波平定などを行った軍略家の顔、京都を挟んで琵琶湖水運の重要地坂本城と山陰・中国地方への要衝地丹波亀山城の支配を任せ、丹波を支配した統治者の顔など、さまざまな分野で活躍しています。信長をして「天下の面目をほどこし候」といわれるほど優秀な人物で、織田家の家臣として時代を変える一翼を担っていました。



今回の講座では織田信長政権の中で明智光秀がいかなる存在であったのかを中心にお伝えしていきます。その中で垣間見ることができる光秀の人物像について迫っていきたいと思います。また本能寺の変についても様々な説がありますが、光秀がどのように関わったのかについても見て参ります。

今回の講座では12月20日(土)に行う望念会(忘年会)のご案内を致します。年末が近づくとつれづれ多用になりますが、みなさんのお越しを心よりお待ちしております。よろしくお祈りします。

## 明智光秀

～正統を守った家臣の姿～

- 【岐阜】 11/28 (金) 19:30～21:30
- 【本荘】 11/29 (土) 14:00～16:00
- 【大垣】 11/29 (土) 19:00～21:00
- 11/30 (日) 14:00～16:00
- 【長浜】 12/7 (日) 14:00～16:00

※予備日…12/6 (土) 大垣本部14:00～16:00



## 明智光秀

享禄元年(1528)生まれ。細川ガラシャの父。美濃の土岐氏の一族とされる。故実・典礼に通じた教養ゆたかな武将で、はじめ朝倉義景につかえ、のち織田信長の家臣となって、足利義昭の上洛に尽力。義昭や寺社・公家との交渉役をつとめる。元亀2年(1571)近江坂本城主となり、のちに丹波攻略などに功をたて、亀山城主となる。天正10年(1582)信長を本能寺に討つが、羽柴秀吉に山崎の戦いで敗れて逃走中の山城國小栗栖にて殺害。享年55歳。

- <講師> 秋枝 博士(志門塾 生涯学習部講師)
- <受講料> チケット3枚 5,400円(税込)
- チケット1枚 2,160円(税込)
- <場所> 岐阜 志門塾岐阜本部(岐阜シティータワー43)
- 本荘 志門塾本荘校(岐阜市稲荷町5-1-6)
- 大垣 志門塾本部3F(大垣市林町3-186-1)
- 長浜 志門塾長浜校(長浜市八幡中山町519-1)

受講ご希望の方は、志門塾 生涯学習部までご連絡下さい。

TEL 0584-74-3011 E-mail akieda@shimonjuku.com



志門塾 生涯学習講座

## 明智光秀の人物像

明智光秀は織田信長を支えた家臣として活躍をしています。明智光秀が残した言葉をひとつご紹介します。

自分は瓦か石ころにも例えるべき落ちぶれた賤しい身分から召し出され、主君から莫大な軍勢を預けられている以上、軍律を正さなければ、武勇も功績もない輩となり、その上国家の穀<sup>かす</sup>つぶしとして公のものを掠めとるに等しく、みんなに嘲けられて苦しみを重ねるであろう。つまり君達は群に抜きんで、骨をくだいて忠節を励んでほしい。そうすればすみやかに主君のお耳に達するものである。すなわち明智家の軍法はかくのごとくである。(口語訳)

「明智光秀家中軍法」

【解説】「明智光秀家中軍法」とは、光秀が天正9年(1581)6月2日付けで家中に発布した軍法であり、織田軍の中において唯一現存している軍法です。本能寺の変が起こる一年前にあたります。信長公によって拾って戴いた恩を感じ、信長公の天下統一事業に貢献しなければいけないと思う光秀の姿が見て取れます。

## 関連史跡の紹介 (2つの明智藪)



### 明智藪 (京都市伏見区小栗栖)

天正10年(1582)、6月本能寺の変後、明智光秀は山崎合戦で羽柴秀吉軍に敗れ、近臣10数名と共に暗夜に乗じて居城近江坂本を目指しますが、小栗栖の竹藪道に至った所を信長の近臣小栗栖館の武士飯田一党の襲撃を受け最期を遂げます。この明智藪は今日に至るまで明智光秀の終焉の地として伝えられています。



### 明智藪 (京都府福知山市)

天正8年(1580)、明智光秀は福知山城下の建設に伴って、河川の氾濫を防ぐために由良川の流れを大きく北に付け替え、堤防を1.7kmに亘り築いて城下町を守ります。現在では、水防林の北端部だけが「明智藪」として残っています。光秀が420年以上前に築いた明智藪の堤は、なおも福知山の城下町を見つめ、守り続けています。